

守大助さん面会記 えん罪・仙台北陵クリニック事件

6月9日(金)救:神奈川

三浦正也さん(横浜) 救:横須賀支部の吉田龍子さん、伊藤幸枝が面会しました。これまでと違い、大助さんの休日に合わせるために調整が大変で、速達便により、面会日に行くことを知らせたのですが、無事に面会が実現できて安堵しています。炊事係に変わってから大助さんは何かと苦労も多く、体重も減ったというので、会うまで心配でした。いつもより長く待たされましたが、面会室で大助さんの変わらぬ穏やかな笑顔を見たときは、ひとまず安心いたしました。けれども、朝5時半から夕方6時までの洗い場の仕事。長靴を履いての立ち仕事は相当きつそうです。その上、20歳代の若い仲間たちから、呼びつけされたり、他人のミスでも自分のせいにされる、辛いと言われていました。これまでも仕事仲間の粗野な言動は、育った環境に由来するものなので、無視することにはしてと言われてきました。これから暑くなると、炊事場での仕事は、もっと大変になってくると思われます。健康保持が最優先の急務です。支援の輪を広げ、再審を実現し、大助さんをこの苛酷な状況から、一日も早く解放してあげなければと、強く思いました。希望の週刊誌や日用品も差し入れました。面会の手続きから差し入れまで、救援会千葉県本部の戸賀さんが行き届いたお世話をしてくださいました。心から御礼申し上げます。大助さんからもよろしくとのことでした。

救援会横須賀支部 伊藤幸枝さん

ご案内

関東連絡会交流会9月2(土)~3日(日)

千葉・九十九里浜 蓮沼海岸:浪川荘

参加費10,000円

全国支援する会と救援会県本部に送りますので、詳しくはチラシを参照してください。

参加をお待ちしています。

えん罪・仙台北陵クリニック事件

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行う。

6月9日(金)

前は昨年12月に面会をしました。久しぶりの面会が出来、嬉しく思いました。大助さんは清々しい笑顔で部屋に現れ、お元気そうでホッとしました。新しい仕事の内容や仲間達との関係もリアルに話され、ご苦労が思われます。一日も早く事実調べの証人尋問を実施し、大助さんをお母様の元にと強く思いました。

吉田龍子さん

神奈川の吉田さん、伊藤さん、三浦さん



激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 **2017年7月107号**

●7月の面会は4日、14日、ご両親。■8月の面会は空いています。 日、日、ご両親

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730

fax043-239-7740 E-mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

6月20日(火)

面会の手続きをして重い扉の扉の中に入る、待つこと15分、「やあ、やあ」と大助さんが笑顔で入って来た。一見して「痩せたな」と感じましたが、やつれた様子ではなく、むしろ引き締まって精悍になった印象でした。

大助さんはこの日は休みではなく、「1000人分の食器洗浄を終えてきた」手は荒れてる、爪が割れる、遅くまで仕事するといった現状を話され、重労働の中でも「(肉体的には)元気です」けれども、同僚の年下の「先輩」から意味なく怒鳴られると精神的疲労が蓄積している。憤懣やるかたない思いをしながら、そもそもやってない自分が何でこんな中にいなければならないのか、という思いがにじみ出ていました。

3月の全国集会、高知で43番目の守る会がつくられたこと、茨城の会の総会の様子を話した。大助さんは三者協議で裁判官が「証拠調べも事実調べも考えてない」と話したことに、何も調べず「棄却決定」を追認するようなことは絶対やめてほしいと、強い口調で避難していました。

再審制度があるから無実を主張している、どんな判断でも自分は裁判官を信用し、お願いするしかない、判断できないならせめて差し戻してほしい、実質審理をせずに推認で再審棄却を決定した一審を維持するくらいなら、死刑判決をくだしてもらったほうがいい、とまで訴えていました。現物を提出しないロット番号のないマスクラックスの写真で有罪認定、指紋照合したというのに誰の指紋かもしれないのに犯人にされたのだから証拠を開示してほしいと当然の要求です。

私達は運動で裁判官に伝えていかなければと決意しました。日弁連への支援要請、事実調べ要求ハガキなど支援運動の現状など、話が尽きないうちに面会時間は終わってしまい、ハイタッチをして別れました。

23日の仙台高裁要請で大助さんの思いを裁判官に伝えてと強く訴えました。

大名章文さん(茨城の会)



6月19日に高知で支援する会が出来ました。 徳島(左から川上さん、有川さん)からも参加

6月26日(月)御両親

24日に43番目の西大阪の会結成に阿部弁護士と共に参加しました。54名の皆さんに参加して頂き、また、急遽香川から鑑定人の池田先生も駆けつけくれました。会長さんが現役の医師で参加者も医療関係者が多く、鑑定人の池田先生とともに中身の無い検察官の意見書に反論は怒り心頭ででした。参加者の皆さんは池田先生の話が医学的に200%納得出来るものでした。

25日は新幹線で千葉に、宿泊したのち26日に面会朝一番でいつものように30分で大助は穏やかな笑顔で元気でした。

大阪での医療関係者が理解して頂き嬉しいと大助は喜んでいました。さらに私達は面会にはいつも車の移動で時間的にはかかりますが、新幹線・電車の移動は初めてなので慣れないためにクタクタと話したら、大助は面会して頂く皆さんも同じ苦勞しているものと改めて感謝しておりました。

6月19日には大阪にさきがけて高知に守る会がつくられました。

